

情報教育に関する児童生徒の実態調査

情報教育推進調査研究 研究員

鈴木 章 人 (山形市立第六中学校教諭)

1 はじめに

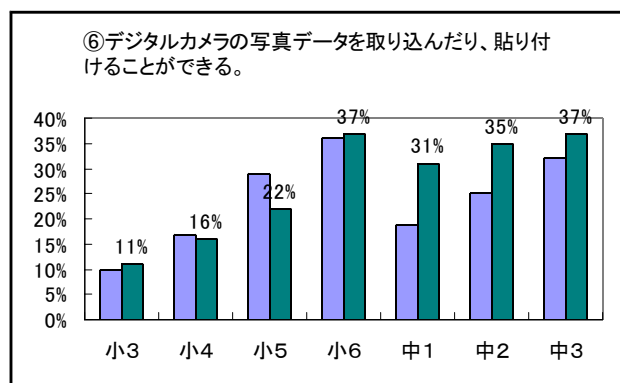
最近では情報端末といわれるインターネットや携帯電話を利用した犯罪や事件のニュースが頻繁に報道され、「振り込め詐欺」や「集団自殺事件」などの例があるように、それらに関わる人々も性別や年齢に関係ないようだ。低年齢化している最近の犯罪傾向をみると、小・中学生がこのような事件に関わる可能性もある。

今回の実態調査は昨年度の調査をベースに行われ、昨年度までの分析結果をもとに、調査項目を再検討してみた。また、学校や家庭における「生きる力」の重要な要素である情報活用能力や情報機器やインターネット接続等の環境、約束事、児童・生徒の情報モラルなどの実態を調査し、今後の情報教育の推進に資することを目的として本研究会を組織して調査研究を行った。

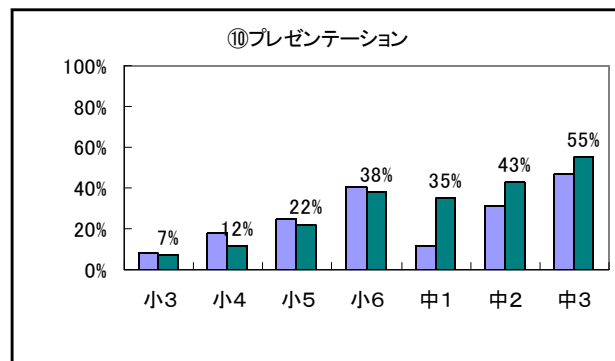
2 情報スキルについて

■ 2003年度のデータ
■ 2004年度のデータ

Q1.「できること」を全て選びなさい。



Q4.授業で学習した内容を全て選びなさい。



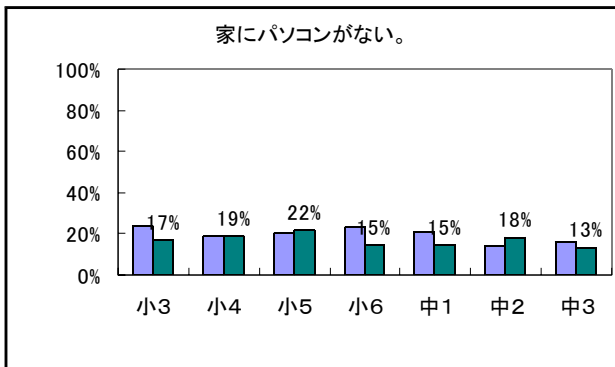
〔情報スキルに関する考察〕

ほとんどの結果が昨年と同じような傾向にあり、特に小学校では大きな変化は見られないようである。しかし、中学校で質問4の「授業で学習した内容」の「ワープロ」や「デジカメの使い方」、「プレゼンテーション」での伸びが見られ、その結果、質問1の「できること」での写真データの貼り付けや、プレゼンテーションソフトでのまとめ、ホームページ作りといったスキルの向上につながったようである。

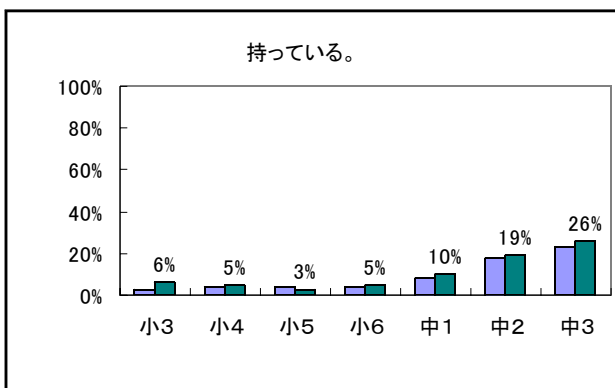
どの問いもほぼ右肩上がりのグラフになっていることから、学年が進むに移れてスキルの向上が見られる。また、いくつかの問いで小学校と中学校の間に数値の段差が見られ、これは今年度に限ったことではなく、例年見られる傾向である。小学校のとき「できたこと」が中学生で「できなくなる」この現象について質問の質に関わることに思えるので今後課題として考えていきたい。

3. 家庭でのパソコン使用状況について

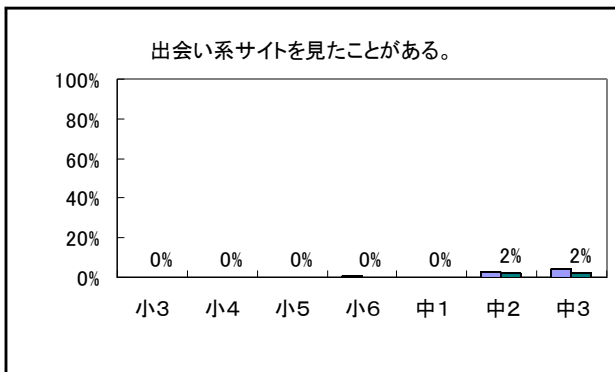
Q5.家でパソコンが使えますか。



Q6.自分が自由に使える携帯電話（PHS含む）を持っていますか。



Q10.家のパソコンで利用したことがあるものは何ですか。



〔家庭でのパソコン使用状況に関する考察〕

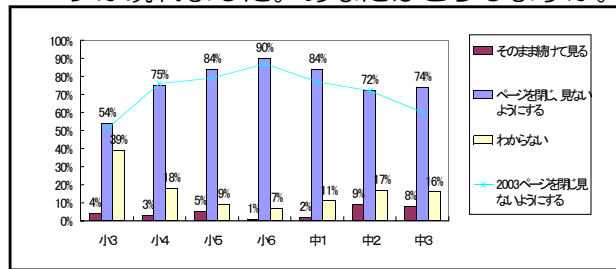
山形市内児童生徒の家庭でのパソコン普及率は平成14年度の72～75%から今年度は80～85%となり3年間で約10%の伸びがみられる。それに伴って、児童・生徒がパソコンを利用する機会も増え、インターネットや調べ学習に活用されることが身近になったようだ。

パソコン普及率の増加に伴い、閲覧にふさわ

しくないサイトでの問題発生率が増加しそうに思われるが、出会い系サイトや有料サイト、殺人・麻薬・アダルトサイトの閲覧は昨年度よりも低い数字となっていることから、家庭でも有害サイトを見せない対策が進められているようだが、この数字が0ではないことから、有害サイト対策についてはより具体的な方策を示していかなくてはならない事項である。この家庭でも手軽に取り組める方法を今後提示できるようにしていきたい。

3. 情報モラルについて

Q13.インターネット閲覧中変な写真が載ったページが現れました。あなたはどうしますか。



〔情報モラルに関する考察〕

各問いの理想と思われる回答の傾向を見ると、小学校の高学年を頂点に山なりになっているグラフ（数値の傾向）が多く、情報モラルについての学年毎の理解の度合いがわかる。理想と思われる回答を昨年の数値と比較すると、ほとんどの問いで昨年を上回っていることから情報モラルの向上がみられる。しかし、数%の児童生徒は明らかに不適切と思われる回答をしていることから情報モラルの教育は不十分とも言える。ここ一年の間で急速な広がりを見せている、ブログやアバターなどのコミュニケーションツールについても気になるところであり、「情報モラルの教育」が徹底しないとコミュニケーションツールが非行や犯罪の温床になる危険性は大きい。今後これらの利用については調査・研究をすすめる必要があると思われる。